

いろは親水公園の利活用に向けた基本的な考え方

1. 現状・目的

現在、市では、いろは親水公園を“にぎわいづくりの拠点”と位置付け、春のイベントや和舟回遊事業「いろはの渡し」などの各種事業を実施しているところである。

また、埼玉県「川の国埼玉はつらつプロジェクト」に本市が提案したいろは親水公園を中心としたにぎわい創出事業が採択され、船着場や護岸の整備など、四季を通じて人が集い、にぎわいあふれる場となるような環境整備を実施しているところである。

さらに、これらの取組をまとめた「志木市かわまちづくり」計画が、良好なまちと水辺が融合した空間形成を目指す取組として国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録されたところである。

今後は、いろは親水公園にこれまで以上のにぎわいを創出することを目的として、飲食提供施設の設置や魅力ある遊具の整備、さらには市指定文化財である旧村山快哉堂の活用をも含めた当該公園のもつポテンシャルをより一層生かすアイデアの整理・諸規定の整備を行い、いろは親水公園の魅力向上を図ることとする。

【国の動向】

国においても、都市公園や河川空間の積極的な活用を図るため、民間活力を導入した新たな空間活用を可能とする規制緩和を行っている。

- ・都市公園法の改正
- ・河川空間のオープン化（河川敷地の占用に関する規制緩和）等

2. 魅力向上に向けた方策の検討

民間活力導入可能性調査の実施

(1) さまざまなアイデアの検討

平成29年度に報告された、市民で構成される「まちの担い手育成塾」及び市職員で構成される「いろは親水公園にぎわいづくり検討プロジェクト・チーム」の提案をもとに「にぎわい創出の基本コンセプト（2頁参照）」を設定した上で、豊富なアイデアとノウハウを有する民間事業者等から、魅力向上に向けたアイデアを募集し、検討を行う。

〈求める提案内容〉

- ・公園に新たな付加価値を与える施設に関する事業提案（ハード事業）
例）カフェ、バーベキュー場、アスレチック遊具など
- ・来訪のきっかけとなる各種事業の実施に関する事業提案（ソフト事業）
例）マルシェ、和舟回遊事業、スポーツ教室など

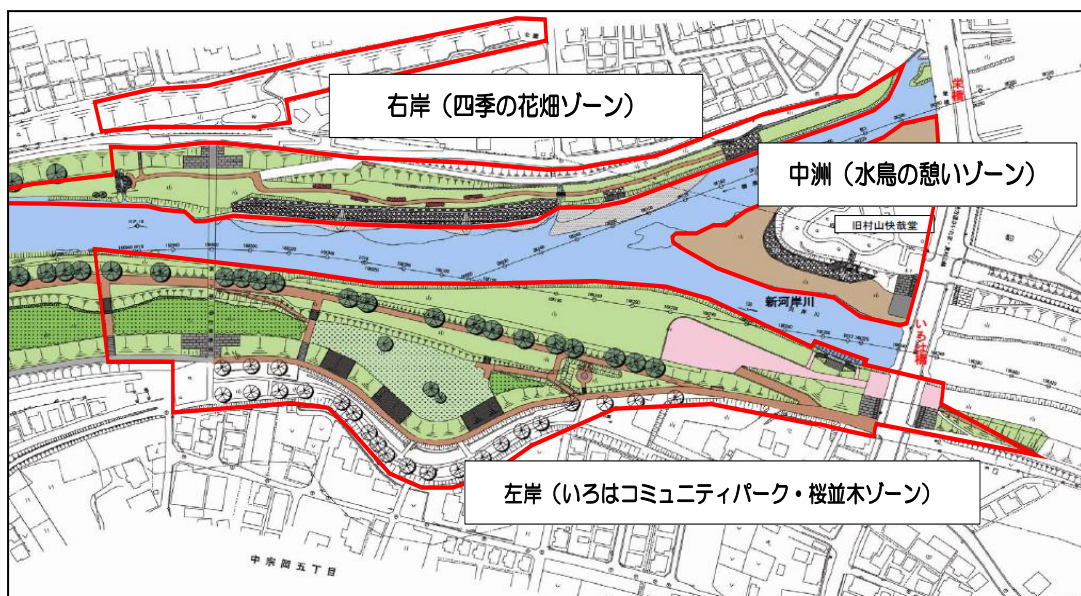
(2) 実施手法等の検討

実施手法等の整理・検討を行う。

- ・ 実施手法（公募設置管理制度／設置管理許可制度など）の洗い出しや手続き上の条件、先行事例等の整理
- ・ 関係法令の整理（都市公園法、河川法等）
- ・ 補助制度の整理

3. 対象公園

いろは親水公園（志木市本町2丁目及び中宗岡5丁目地内）



4. にぎわい創出の基本コンセプト

事業提案を募集するにあたり、次のとおりコンセプトを設定する。

- ・ より多くの人を集客できる新たなにぎわいを創出するため、さまざまな利用者のニーズに対応した「多目的な公園」として整備する。
- ・ 公園の多目的化を図るにあたり、エリア別のテーマを次のとおり設定する。

① 右岸（四季の花畑ゾーン）：自然散策エリア

〈現状〉

右岸は、草花も多く自然が豊かであるとともに、日常の散歩コースとして利用する人も多い。

〈エリアコンセプト〉

毎日の散歩や子どもの遊びなど、日常的に人が訪れる「自然散策エリア」とする。

〈活用例〉

四季折々の花の植栽、ウォーキングルートの設定、流れ橋の利活用など

② 中洲（水鳥の憩いゾーン）：ゆったりエリア

〈現状〉

中洲は、新河岸川と柳瀬川の合流地点にあり、桜の季節をはじめ、さまざまな眺望を楽しむことができる。

〈エリアコンセプト〉

訪れた人がゆったりと過ごすことができ、癒しを感じる「ゆったりエリア」とする。

〈活用例〉

旧村山快哉堂を活かしたカフェの設置、マルシェの開催など

③ 左岸（いろはコミュニティパーク・桜並木ゾーン）：にぎわい・活動エリア

〈現状〉

左岸は、公園としての面積が広いから、さまざまなイベントを開催することができる。また、水辺に近いことから、水辺ならではのアクティビティを行うことができる。

〈エリアコンセプト〉

水辺に面した広場等の活用をはじめ、さまざまな活動を行うことができる「にぎわい・活動エリア」とする。

〈活用例〉

複合型アスレチック遊具の新設、臨時的バーベキュー場の整備、スポーツ教室の開催など

5. スケジュール案

年度	内容
平成31年度 (2019年度)	<ul style="list-style-type: none">・民間活力導入可能性調査等業務委託 事業者選定・サウンディング型市場調査の実施・基本計画(素案)に対する意見公募手続の実施・基本計画の策定
平成32年度 (2020年度)	<ul style="list-style-type: none">・施設設計の実施
平成33年度 (2021年度)	<ul style="list-style-type: none">・施設整備の実施
平成34年度 (2022年度)	<ul style="list-style-type: none">・リニューアルオープン